

感染症情報 1月8日～14日

府下小児科198療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	961例(堺市	34例)
②溶連菌感染症	309例(堺市	20例)
③RSウイルス感染症	170例(堺市	6例)
④みずぼうそう	73例(堺市	4例)
⑤突発性発疹	59例(堺市	7例)

府下インフルエンザ定点305医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 6553例(堺市 532例)

が報告された。

感染症報告数は前週比51%増の1,711件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、みずぼうそう、突発性発疹の順であった。

前週が1月1日から7日までの集計であり、単純比較はできないが、感染性胃腸炎は府下で前週より66%増、堺市で前週より6%減であった。溶連菌感染症は府下で前週より97%増、堺市で前週10例→今回20例であった。RSウイルス感染症は府下で前週比8%減、堺市で前週と今回は同数であった。定点当たりで見ると、前週・今回とも0.9であった。みずぼうそうは府下で前週比15%減、堺市では前週3例→今回4例であった。

インフルエンザは府下で前週3873例→今回6553例で69%増、堺市では前週281例→今回532例で89%増となった。定点当たりでは前週が12.7で、今回は21.5となった。12月の大阪府内のウイルス検出状況はB型が47%、AH1pmd09(いわゆる新型)が45%、AH3(いわゆるA香港型)が8%であったという。

麻疹や風疹の報告はなかった。